将来像検討資料

1. 将来像（案）5案

基本構想における将来像は、市民と市が共有すべき未来のビジョンであり、その実現に向けた幅広い協働を促すために掲げられるものです。

これまで、市民意識調査、市民ワークショップをはじめ、市民参画を通じて、様々な声を聞き、市の強み・弱みから導き出したキーワードや第5次総合計画の総括から想定される課題から、将来像を構成する要素を整理してきました。

さらに、審議会委員の意見等を踏まえ、将来像（案）を次のとおり提示します。

(1) みんなで育む 心地よいまち 朝霞

(2) 私たちが創る 暮らし快適都市 あさか

(3) だれもが誇れる つながりのある街 A S A K A

(4) みんなで創る 選ばれるまち あさか

(5) 私たちが育む 未来創造都市 朝霞

2. 将来像（案）の説明

(1) みんなで育む 心地よいまち 朝霞

【説明】

武蔵野の自然が残され、快適な都市基盤も整備された環境の中で、市民一人ひとりが思い描く「心地よい暮らし」を追求できるまち（「トカイナカ」）を、市民・行政等多様なつながりの中で守り、育てていく。

みんな	：多様な主体
育む	：あるものを活かす
心地よい	：生活環境、自然環境、都市環境のほか、人と人との関係性も想起される
まち	：ソフト・ハードを含めた朝霞市全体、各地域を想起
朝霞	：やや硬質なイメージだが、文字が「朝」「霞」なので、そこまで硬いイメージにはならない

(2) 私たちが創る 暮らし快適都市 あさか

【説明】

通勤・通学に便利な都心への交通利便性や、買い物等の生活利便性があり、都市基盤も整備された快適な環境の中で、市民一人ひとりが暮らしていける都市を、市民と行政との協働の中で創造していく。

私たち	：市民と市が創る、という主体性が明確
創る	：ないところから作る
暮らし快適	：生活利便性、都市の快適性が想起される
都市	：どちらかという都市機能を発揮するハード面を想起
あさか	：柔らかいイメージ、反面“朝霞市”を想起しにくい

(3) だれもが誇れる つながりのある街 ASAKA

【説明】

地域に対する市民の愛着や誇りに思う気持ち（シビック・プライド）が育ち、人と人のつながりによりコミュニティの希薄化への懸念も解消し、また、DX等の技術によって生活利便性も高まった街としていく。

だれもが	：主体性ある“私”以外の“だれもが”が含まれる
誇る	：魅力の創造・活用等を背景として知る、好きになる、誇る
つながりのある	：コミュニティやネットワークが想起される
街	：どちらかというとし街地が想起される
ASAKA	：ポップなイメージではあるが軽薄とを感じる向きも

(4) みんなで創る 選ばれるまち あさか

【説明】

武蔵野の自然が残され、市民文化が息づき、都市基盤も整備された魅力的な環境があり、居住の場、活動の場として積極的に選ばれるまちを、市民・行政等多様な協働の中で創造していく。

みんな	：多様な主体
創る	：ないところから作る
選ばれる	：自然・文化・都市の便利さ等魅力的な環境が整っており、積極的に選ばれるまち、が想起される
まち	：ソフト・ハードを含めた朝霞市全体、各地域を想起
あさか	：柔らかいイメージ、反面“朝霞市”を想起しにくい

(5) 私たちが育む 未来創造都市 朝霞

【説明】

交通利便性や整備された都市基盤等に加え、高等教育機関等も立地し若者も多いという未来を切り拓くポテンシャルのあるまちを、市民・行政の協働の中で育てていく。

私たち : 市民と市が創る、という主体性が明確

育む : あるものを活かす

未来創造 : 大学の立地等による知や技術の集積、若者による未来志向の活動の活性化、等が想起される

都市 : どちらかという都市機能を発揮するハード面を想起

朝霞 : やや硬質なイメージだが、文字が「朝」「霞」なので、そこまで硬いイメージにはならない